

議会改革推進特別委員会報告書

令和3年9月17日
議会改革推進特別委員会
委員長 赤祖父 裕美

地方分権一括法が2000年に施行され、自治体の自己決定と自己責任は拡大し、議会の役割も増大し変化してきました。

地方政府としての自立・自律が求められ、あれもこれもではない政策の選択が必要とされ、市民の意見を広聴しての二元代表制としての議会の役割は益々大きいものとなってきました。ここに報告いたします。

湖南省議会における議会改革の経緯

平成22年9月設置

議会改革特別委員会 定数19

目的：地方分権の時代にふさわしい市議会のあり方について

成果：議会基本条例の制定（平成24年6月）
議会報告会の実施（平成24年5月から開始）

平成24年9月廃止
平成24年9月設置

議会活性化特別委員会 定数6

目的：議会基本条例の運用と検証。議会活性化、議会改革

成果：議会基本条例の検証、見直し、改正
事務事業評価方法の検討、実施案の作成

平成25年9月廃止
平成25年11月設置

議会改革推進特別委員会 定数6

目的：議会基本条例の具現化、議会報告会の充実

成果：事務事業評価の実施、議会報告会の内容の検討

平成29年10月廃止
平成29年11月設置

議会改革推進特別委員会 定数6

目的：引き続き、議会基本条例の具現化、議会報告会の充実

成果：事務事業評価の課題抽出、議会報告会の充実
その他議会改革の推進

令和元年9月廃止
令和元年11月設置

議会改革推進特別委員会 定数6

目的：政策立案サイクルの研究、常任委員会が主体となる議会報告・懇談会、事務事業評価の見直し

議会改革推進特別委員会会議記録

令和元年12月17日 今後の議会改革の進め方について

- 11月20日 福井県大野市 議会報告会について視察受け入れ報告。
- 今後の議会報告会（市民との懇談会）について協議
 - ・各団体との懇談会の場を設け、各常任委員会が主体となり実施してはどうか。
 - ・高校生との意見交換会は続けるべきではないか
- 事務事業評価の有効なありかたについて検証
- 今後の特別委員会の目的
 - ・委員会主体の懇談会から提言につながるものがあれば、委員会代表質問等に繋げ、政策提言に繋がらないか。
 - ・政策提言サイクルの研究
- 専門的知見の活用、先進地視察・研修を実施

令和2年2月7日 今後の議会報告会の進め方について

- 市民と議会の懇談会
 - 各常任委員会が主体となって所管する団体等との意見交換とする。対象団体は今後検討
- 先進地視察 令和2年7月に 岐阜県可児市議会へ。
政策立案に繋がる委員会代表質問を中心に研修予定
- 事務事業評価について
 - より効果的な評価につながるよう、審査する委員会を含め検討を行う。

令和2年3月19日 議会報告会について、先進地視察について

- 総務常任委員会 ネクスト コモンズ ラボ（地域おこし協力隊）
- 福祉教育常任委員会 湖南省スポーツ協会
- 産業経済常任委員会 市内の集落営農組織等
- 先進地視察について
岐阜県可児市議会 議会改革全般・特に政策立案につながる委員会代表質問
- その他
研究会報告 令和元年5月から開催された滋賀県市議会議長会主催「広報・広聴活動についての研究会」の報告を前当委員会委員長植中都議員から報告を受ける

令和2年6月19日 事務事業評価について、議会報告会について、行政視察について 可児市行政視察については、コロナウイルス感染拡大に伴い延期となる。

令和2年9月25日 事務事業評価について、議会懇談会について、その他

○事務事業評価

総務常任委員会・・・地域公共交通対策事業・市有地管理委託事業
福祉教育常任委員会・・・学童保育所運営事業・図書館等整備事業
産業経済常任委員会・・・道路維持補修事業

○市民と議会の懇談会

成果報告書提出

Table with 3 columns: 令和2年度 市民と議会の懇談会 成果報告について (各項目詳細), 令和2年度 市民と議会の懇談会 成果報告について (概要), 令和2年度 市民と議会の懇談会 成果報告について (詳細).

令和2年12月16日 事務事業評価と議会懇談会の各会派からの意見集約

- 令和3年2月8日
・政策提言の具現化・市民と議会の懇談会
・甲賀市の取り組みについて

- 令和3年3月19日
・事務事業評価を決算常任委員会に移管するための 議長提出依頼文書の検討
・政策立案サイクルのイメージ図検討
・議会報告・市民との懇談会について
→改選後に開催を検討する

- 令和3年5月10日
・「政策提言サイクルの具現化について」
Zoomによるオンライン研修
講師：岐阜県可児市議会 川上文浩議員
・政策提言サイクルの具現化について
(議会チャレンジシステムを含めての議論)

- 令和3年6月23日
・政策提言サイクルの具現化研究→次の委員会で引き継ぐ
(議会チャレンジシステムを含めての議論)
・可児市の取り組みを聞き本市に取り込めることについて
・委員会での取り組み成果と今後取り組むべき課題を提出

委員会の今後の方向性について

(委員からの意見に基づいたまとめ)

委員会での取り組み成果について

- 常任委員会が中心となって、関係団体と意見交換会（議会報告会）を開催し、その後の調査研究につながったこと
- 事務事業評価を決算常任委員会に移行したこと
- 各市町の議会改革の内容を研修したこと
- Web 研修を実施したこと

今後の委員会において取り組むべき課題や問題点について

- 政策提言サイクルについて様々な意見が出され、最終的な作成には至らなかった。
- 議会基本条例の見直し（議会報告会の部分を整理すべき）
- 議員定数を 16 名にする提言が保留されている問題（併せて報酬の見直し）
- 委員長手当の導入の検討
- 事務事業評価の成果は、何回か実施した後に成果を検証すべき
- 議会報告会の実施（政策提言につながるようなもの）
- 内部的な委員会のあり方について検討すべき
(例：議会だより作成の委員会 6 名
議会報告会実施の委員会 6 名
子どもたちに議会に触れてもらう委員会 6 名)

令和 3 年 9 月 14 日に委員会を開催し、この報告書を作成しました。

特別委員会はいったん閉じますが、今後も「市民に開かれた議会」をめざし、市民の声が実際に住民福祉につながるよう引き続き、議会を挙げて研鑽を重ね「議会改革」を推進すべきと考えます。